

開催館名 漢検 漢字博物館・図書館

企画展名 2024年夏企画展「漢字水族館」

開催期間：2024年5月28日（火）～2024年9月29日（日）



【企画展の内容・目的】

- 「漢字」をテーマとした一見すると「海」とは関係のない当館（京都市）において「海」に関連する企画展「漢字水族館」を開催することにより、普段「海」を意識していない多くの人々に対して「海の学び」のきっかけを提供することを目的とした。
- 関連事業として展示をより深く理解していただくための仕掛け「展示に隠された魚発見（漢字水族館クイズ）」を実施し、クイズを解く楽しみを通じて学びを深めることにつなげた。
- 連携協力先である「海遊館（大阪市）」をはじめとする水族館に「海の生き物」実物を見に行くという体験の流れをつくることにより、「海洋文化」に対する理解を深めるきっかけづくりを目指した。

1. 企画展示の内容

■開催期間：2024年5月28日（火）～2024年9月29日（日）

■開催場所：漢検 漢字博物館・図書館 企画展示室

■入場者数： 25,902人



漢検 漢字博物館・図書館 外観



企画展会場 入口

1. 入口～導入(展示紹介)



入口挨拶パネル・会場マップ



フोटスポット



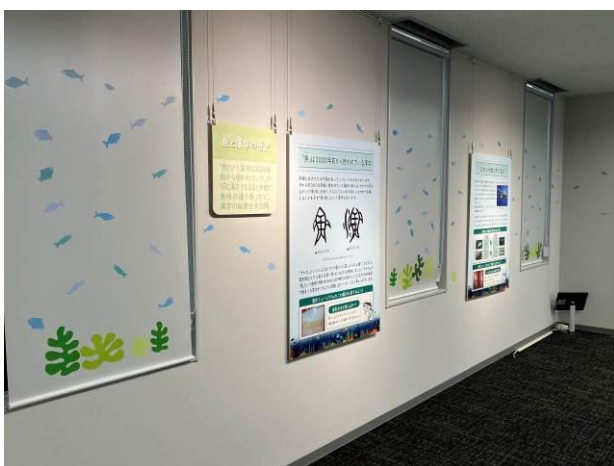
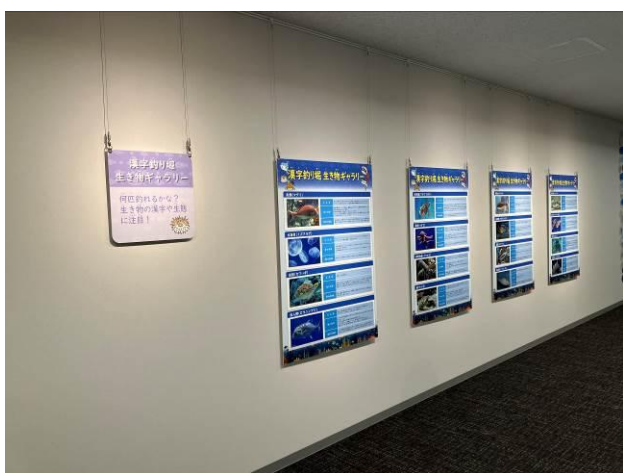
おさかなカルタ



記念缶バッジガチャ

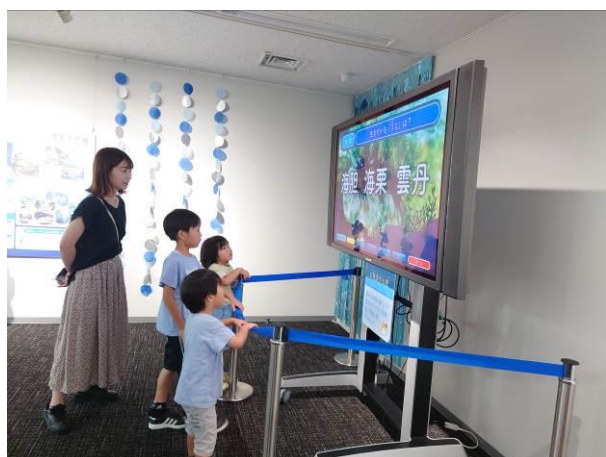
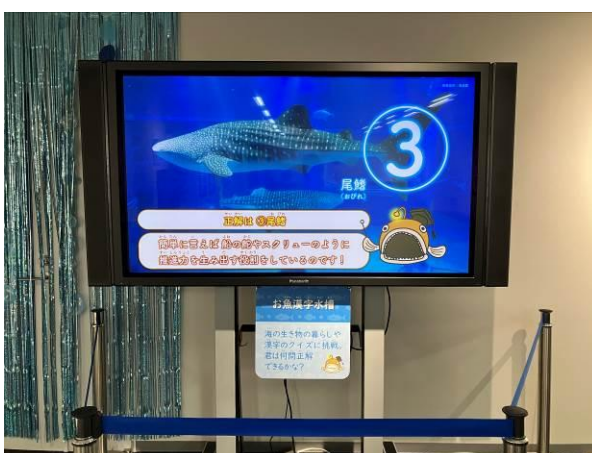
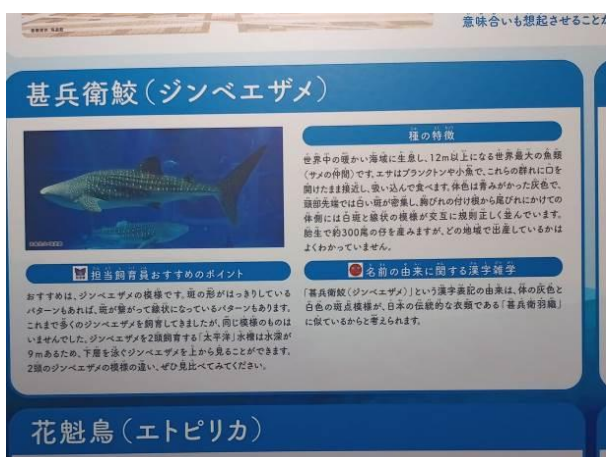
企画展示室入口（兼出口）エリアに「挨拶・会場マップ」「おさかなカルタ」「（付帯事業①の）記念缶バッジガチャ」を配置。展示趣旨を伝えるとともに、企画展示導入部として「楽しい」展示であることの期待値が高まるよう工夫した。

2. 漢字釣り堀(疑似体験)



表面に漢字での魚名、裏面に読み方や学名を記載した魚型のパネルをビニールプールに入れ、釣り竿で釣り上げる「釣り堀」形式で展示。釣り上げた魚の生態や漢字名の由来等を壁面のパネルで学べる構成とし、観覧者が楽しみながら魚の漢字名だけでなく生態も学べる展示とした。同エリアでの「魚と漢字の歴史」パネルでは、貝がお金や薬として利用されてきたことなど、魚や海の生き物が古くから人々の生活に根付いていたことを学べるようにした。

3. お魚図鑑・漢字水槽



連携協力先である「海遊館」の生き物を映像とパネル形式で紹介。「海遊館」が自然を大切にしていることの説明に加え、飼育員による解説コメントを紹介。「水族館」が単に「海の生き物」を見せるためだけの施設ではないことを学べるようにした。

また、「海の生き物」の生態や分類、進化を映像にして紹介するとともに、映像の随所で観覧者にクイズ形式（選択式）での問いかけを取り入れることで、観覧者が参加感を得られる構成とした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

4. 参加型展示



参加型展示（開始前）



参加型展示（開始後）



参加型展示（開始前）



参加型展示（開始後）



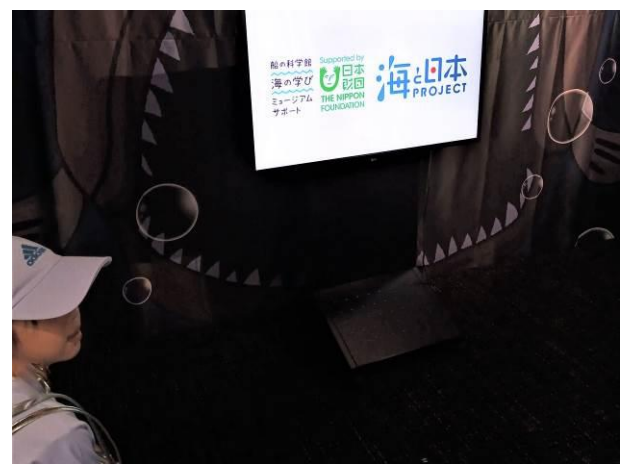
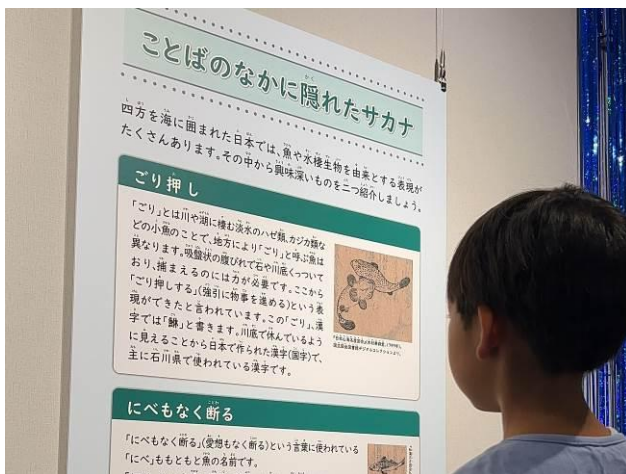
参加型展示に参加している様子



参加型展示から学んでいる様子

観覧者が自身の知っていることを書き残し、展示にしていく「参加型」展示。他の観覧者が書き残したものを見て、次の観覧者の学びや発見につながる効果を期待した。同じ魚についても地域によって呼び名が異なったり、違う漢字での表記があったりするなど観覧者同士で気づくことができるようにした。

5. 海や川に関する漢字のお話・深海魚不思議クイズ



日常的に使う「言葉」の中にも「海の生き物」が隠れていることや、同じ漢字名でも日本と中国では異なる魚を表すものがあることなどを紹介。「海の生き物」が古くから人々の生活に根付いてきたことを学べるようにした。

また、深海魚不思議クイズでは、お魚漢字水槽と同様に映像の中にクイズ形式を取り入れることで観覧者が参加感を得られるようにした上で、深海生物の生態について学べる展示とした。

【来館者の声】

○今マイクロプラスチックのことを勉強していて、魚からの視点も興味が出ました。（１６歳）

○聞いたことのあるような魚でも近年の温暖化などで無くなるなど深刻になっているので、魚のことを勉強して、より海を守らないといけないと感じた。（２６歳）

○海を大切にしていきたいと思った。（８歳）

○ポイすてをなしにする。（８歳）

○海がなければ魚はいないということは私たちもいなくなっていくから海がとても大事なことが分かりました。（１０歳）

○昔からの海の生き物と人との繋がりを名前や言葉を通じて感じることができました。「海遊館」にも何度か足を運んだ事がありますが、また訪問しに行きたいなと思いました。（３８歳）

○海遊館に行きたくなりました。魚についてもっと知りたくなりました。（２６歳）

2. 関連事業の内容

■関連事業名① お魚缶バッジ

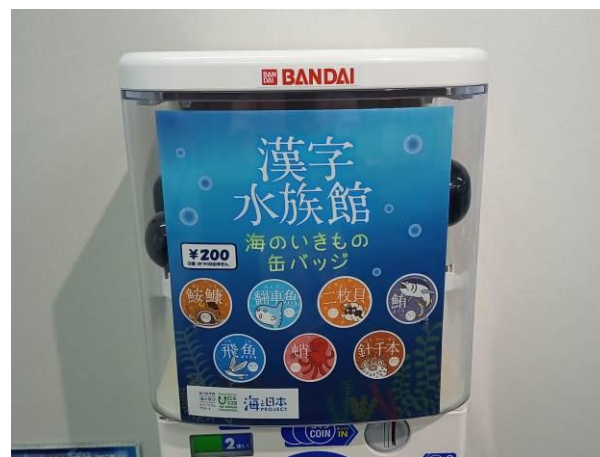
【開催日時】2024年5月28日（火）～9月29日（日）9：30～17：00

【開催場所】漢検 漢字博物館・図書館 企画展示室

【参加者数】1,101人

【実施内容・目的】

難読魚名とその魚をキャラクター化したイラストをあしらった缶バッジを制作しガシャポンで配置。本企画展観覧の記念品として、観覧者のうち希望者が有料で自由に引くことができる。観覧者自身が、展示から得た「海の学び」の記憶を後日に呼び起こすきっかけとなるとともに、観覧者が身の回り品に缶バッジを飾り付けることで、周囲の人の目に触れ、より多くの人の興味喚起につながる。



記念品として持ち帰る（購入する）ことが可能で、かつ身の回り品につける可能であることから、企画展を観覧した経験を後日思い起こすきっかけになること、また缶バッジを見た友人から質問された際に説明することによる記憶の定着効果、友人への広報効果を期待した。

■関連事業②展示に隠された魚発見（漢字水族館クイズ）

【開催日時】2024年5月28日（火）～9月8日（日）9：30～17：00

【開催場所】漢検 漢字博物館・図書館 企画展示室

【参加者数】500人

【実施内容・目的】

- 展示室内及び展示物の中に謎解き要素を盛り込み、注意深く展示を観察すると答えにたどり着けるクイズシートを用意。正解すると記念品としてキーホルダーを進呈。
- クイズシートに沿って展示を観覧することで、各展示内容をより深く理解することにつなげる。



企画展示室内全体に謎解き要素を散りばめたクイズを3種作成し、ガチャ形式でランダムに出題。参加者がクイズを解こうとする中で展示を改めてより注意深く観察することから、展示内容の理解が深まる効果と同時に、参加者の達成感も醸成されることを企図した。

■関連事業③夏休みワークシート

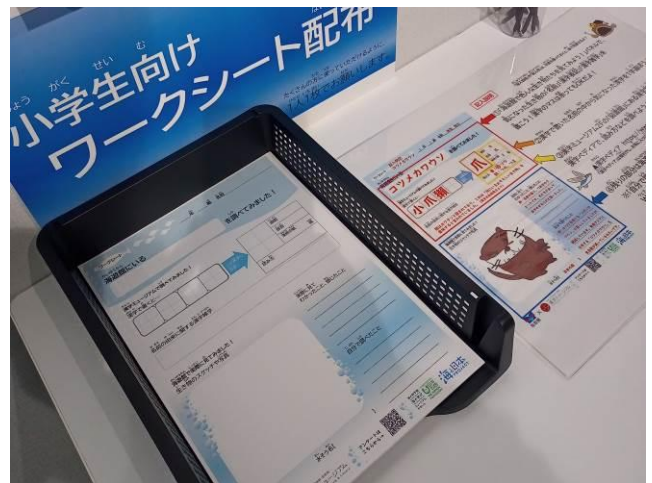
【開催日時】2024年7月19日(金)～9月1日(日) 9:30～17:00

【開催場所】漢検 漢字博物館・図書館 企画展示室

【参加者数】660人

【実施内容・目的】

- 展示内容から得た学びを記録するとともに、協力・連携先である「海遊館」に行ってお覧することで完成するワークシートを用意。小学生の夏休み自由研究課題に使えるようにする。



海遊館で飼育されている生き物の漢字表記と由来やその漢字自体を当館で調べるワークから、実際に海遊館で見学して気づいたことを書き込む形式のシートを無料配布した（自由持ち帰り形式）。

これにより漢字を学ぶだけでなく、海遊館に行ってお覧する海生き物実物を見学するという流れを生み出し、本人が何らかの気づきを得るきっかけとした。

【事業全体のまとめ】

来館者によるアンケートの回答からは、「海と人間の生活のむすびつきを漢字をとおして学ぶことができた」「海がなければ魚はいないということは私たちもいなくなっていくから海がとても大事なことが分かりました」といった感想が得られており、目的とした「漢字」を切り口として「海」を考える、「普段海を意識しない人々に海の学びのきっかけを提供する」という企画展の設定は一定の成果を得られ、海洋資源の保全や環境保護等への意識の醸成につながったと考えられる。

これは、展示自体に「海の学び」へ直接的に誘導する表現はなかったものの、「海の学びミュージアムサポート」のロゴを展示の各所に表示し、企画展示室入口にも「のぼり旗」を設置していたことから、「この展示は全体として【海の学び】をテーマにしている」という趣旨がサブリミナル効果的に来館者に伝わったものと考えられる。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 海遊館	展示内容の監修
2. 大日本印刷	展示物の企画・デザイン・組版

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 朝日新聞朝刊	2024年5月30日 イベント欄
2. NHK 大阪「関西ラジオワイド」	2024年7月9日 「きょうの1枚！」
3. 京都新聞朝刊	2024年7月11日 「魚の漢字 釣って学ぼう」
4. リビング京都	2024年7月17日 「漢字と魚の両方に詳しくなれそう」
5. 毎日新聞朝刊	2024年8月2日 「漢字水族館」
6. NHK 京都	2024年9月5日 「京いちにち」

以上